令和７年度　　事業報告書

自　　令和　７ 年　　４ 月　　１ 日

至　　令和　８　年　３ 月 ３１ 日

社会福祉法人

多可町社会福祉協議会

令和７年度　事　業　報　告

令和７年度は、「第４次地域福祉推進計画（あったかささえあいプラン）」（令和３年度～令和７年度）に基づく取組の最終年度であり、評価・見直しの取りまとめを行い、第５次地域福祉推進計画へ反映させました。

小地域福祉活動として、「ふくし防災マップ」づくり等の福祉学習を通じた集落での話し合いの場づくりや「あったか講話」の開催、「ふれあいいきいきサロン」の活性化に取り組み、集落内の現状把握や課題に気づく意識の向上、住民同士のつながりの強化を図ることができました。

地域活動の新たな担い手づくりにおいては、小学校区単位等での「生活を考える会」から発展した居場所づくりや生活支援活動を行うグループの立ち上げ支援、草刈り講習会の実施により、地域において住民同士が役割を持ちながら互いに助け合い支え合う体制づくりを進めました。

ボランティア活動の推進においては、ボランティアの発掘及び各種講座の開催を通じて、ボランティア活動の支援・拡大に努めるとともに、地域のニーズに応じたコーディネートを展開しました。

また、社会福祉法人連絡協議会や行政、北はりま成年後見支援センター、企業等と連携・協働し、多様な機関とのネットワーク強化に努めました。

これらの各事業および活動を通して、地域住民との諸課題の共有や、多様なネットワークとの連携・協働により、基本目標である「みんなが安心して暮らせるまちづくり」の実現を目指し、地域共生社会づくりを推し進めました。

介護事業においては、研修等を通して職員のスキル向上に努めるとともに、利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応し、多様化するケースについても地域住民や関係機関と連携を図ることで、在宅生活の支援に努めました。

以下、令和７年度の各事業等について報告します。

基本目標　「みんなが安心して暮らせるまちづくり」

多可町社会福祉協議会では、地域福祉の推進を住民のみなさんと一緒に進めるため、基本目標を「みんなが安心して暮らせるまちづくり」と掲げています。

推進目標

基本目標を実現するために、４つの推進目標を設定しました。

【１】きづく（重点活動）
【２】つながる（重点活動）
【３】ささえあう（重点活動）
【４】ささえる

活動目標

基本目標と推進目標を進めるため、下記の活動目標を設定しました。これを基に福祉活動を展開しました。

【活動目標１】　地域づくりをほっとけない！できる助け合いが健康長寿への道
【活動目標２】　通院、買い物などの移動に困っている人をほっとけない！
【活動目標３】　できないことをほっとけない！
　　社会福祉法人や商工会、ボランティア団体などとの連携を図ります
【活動目標４】　知らない人をほっとけない！関わりの薄い層への啓発
【活動目標５】　ほっとけない！の積み重ね。住民から信頼される職員と組織づくり

■福祉学習の推進（推進目標１／きづく）重点

福祉に関心を持ってもらい、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めるため、ボランティアや当事者などの協力を得ながら学校で福祉学習（車いす体験、手話体験、高齢者疑似体験等）を行いました。今年度は、ふるさと創造大学から依頼があり、将来について考えるきっかけとしていくため、高齢者疑似体験を行いました。

また、町内の学校・認定こども園・キッズランド等の福祉学習事業に対して助成を行いました。

《学校での福祉学習の開催》

	小学校	その他
今年度実施回数	5校 43回	ふるさと創造大学　1回
前年度実施回数	5校 42回	多可高校　1回

実施団体	実施回数	内容
中町北小学校	8回	ボランティア学習、高齢者疑似体験、車いす体験、手話体験、手話歌学習、点字体験、アイマスク体験、サウンドテーブルテニス体験、朗読体験、認知症サポーター養成講座
中町南小学校	10回	
杉原谷小学校	8回	
松井小学校	8回	
八千代小学校	9回	

《学校・認定こども園・キッズランド等への助成》

	助成団体数	助成額
今年度助成実績	15団体	730,000円
前年度助成実績	16団体	800,000円

助成団体	助成額	内容
北はりま特別支援学校	50,000 円	プランター寄贈交流、ボランティアとの交流等
多可高等学校	50,000 円	福祉学習、ボランティア活動、多可高ちいきふれあいプロジェクト
中町北小学校	50,000 円	福祉学習
中町南小学校	50,000 円	福祉学習
みどりこども園	50,000 円	さつまいも苗植え、さつまいも掘り、やきいも大会、葉ボタン寄せ植え、祖父母とのふれあいのつどい、ありがとうの会
あさかこども園	50,000 円	祖父母参観と交流会
四恩こども園	50,000 円	夏まつり、正月集会等
加美中学校	50,000 円	ユニセフ募金活動、ペットボトルキャップ回収運動
杉原谷小学校	50,000 円	福祉学習
松井小学校	50,000 円	福祉学習

キッズランドかみ	50,000円	さつまいもの苗植え、いも掘りと焼きいも、祖父母参観日
八千代中学校	50,000円	北はりま特別支援学校との交流会、八千代中学校Final感謝祭
八千代小学校	50,000円	福祉学習
キッズランドやちよ	50,000円	さつまいもつるさし、きっずきらきらふぇすていばる（夏祭り）、とんど等
ちびっこランドらくえん	30,000円	栽培体験、高齢者や地域の人との交流
	730,000円	

財源	赤い羽根共同募金配分金

■生活支援体制整備事業

（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる、推進目標３／ささえあう）重点

生活の中での課題や困りごとを住民相互の関わり合いの中から解決していくことを目的として、次の活動を行いました。

《集落への支援》

・集落での「ふくし防災マップ（宝物マップ）」づくりや福祉学習などの支援をすることをきっかけに、話し合いの場の設置や助け合いを推進しました。また、集落における話し合いや助け合いを始めるための研修会を開催するとともに、助け合いの必要性をまとめた「つながる“わ”」を社協だより多可に毎月掲載、「つながる“わ”」の特別号を作成し、地域づくりを啓発しました。

・コープこうべから、買い物に困られている方への支援を目的とした移動販売の相談があり、中町北小学校区の集落に移動販売を提案し、テスト運行を実施した結果、2月から6集落で本運行が開始されました。

《小学校区への支援》

・小学校区ごとに生活を考える会を開催し、課題解決に向けた検討を通して必要な活動を行う住民主体グループが立ち上がり、それぞれに活動を開始するなど、テーマに沿った話し合いをすることで、小学校区ごとの活動を促進しました。

《団体・グループへの支援》

・生活支援活動団体・グループの活動が継続できるように、情報交換を通してグループ間の助け合いを促進することを目的として、生活支援活動団体・グループの情報交換会と居場所づくりグループの情報交換会をそれぞれ年1回、開催しました。

《地域づくり研修会の開催》

開催日	参加者数	内容
5月23日	15名	ふくし防災マップづくりなど集落に対して社協が支援できる内容の紹介や集落同士の情報交換

《地域での活動の実施》

実施集落	集落	活動内容
中町北小	門前	ふくし防災マップの更新と宝物の確認
	安楽田	車いす体験、ふくし防災マップの更新と宝物・困りごとの確認

	鍛冶屋	防災ゲームクロスロード、ふくし防災マップの更新と宝物の確認
	間子	ふくし防災マップづくりの説明、ふくし防災マップづくり（初開催）
中町南小	奥中	ふくし防災マップづくり（初開催）
	安坂	ふくし防災マップの更新と宝物・困りごとの確認
	糀屋	ふくし防災マップの更新と宝物・困りごとの確認
	曽我井	ふくし防災マップの更新と宝物・困りごとの確認
	森本	ふくし防災マップの更新と宝物の確認
	中安田	ふくし防災マップの更新と宝物の確認、福祉サービス勉強会
杉原谷小	西山	ふくし防災マップの更新
	三谷	ふくし防災マップの更新
松井小	豊部	ふくし防災マップの更新（谷ごと）
	熊野部	ふくし防災マップの更新
	的場	的場支え合う会の活動
	寺内	寺内ささえあう会の活動
	西脇	ふくし防災マップづくりの説明、ふくし防災マップづくり（初開催）
八千代小	中村	ふくし防災マップづくり（初開催）
	下野間	ふくし防災マップづくり（初開催）
	柳山寺	ふくし防災マップづくり（初開催）
	中三原	中三原の生活を支える会の活動、ふくし防災マップづくり（初開催）

《小学校区等での活動内容（生活を考える会やグループの打ち合わせの開催）》

区	テーマ	回数
中区	中区の移動支援	8回
	中町北小学校区の居場所・イベントづくり	6回
加美区	草刈りの担い手不足等の生活課題の解消や広報誌の作成に関する検討	8回
八千代区	旧八千代南小学校区の拠点を活用した居場所づくりやコンビニ（風）化の検討	3回
	旧八千代西小学校区の拠点を活用した居場所づくりやコンビニ（風）化の検討	6回

《生活支援活動団体・グループ情報交換会の開催》

開催日	参加者数	内容
9月29日	20名	多可赤十字病院や松井庄診療所など送迎をしている医療機関等からの利用状況や課題等の説明と意見交換

《居場所づくりグループ情報交換会の開催》

開催日	参加者数	内容
12月2日	6名	「課題に感じていること」や「工夫していること」を出し合い、「これからしたいこと、できそうなこと」について意見交換

《新しい地域コミュニティやコークゼミ関連等への参画》

	回数
新しい地域コミュニティ（RMP関連会議）	8回
コークゼミ関連	6回
生活支援コーディネーター連絡会等	3回

財源	町受託金

■多可町社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット多可）と連携

（推進目標２／つながる、推進目標４／ささえる）

多可町内で福祉事業に取り組む社会福祉法人が高齢・障害・児童等の福祉分野を超えて、情報交換や課題共有を行い、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を実現するため、多可町社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット多可）と連携し地域福祉の向上を図りました。

今年度は、本会が実施しているフードドライブ事業の周知や食品受け取りなどの協力をしていただくとともに、法人間でできる合同研修について検討しました。

内容	開催日	内容
正副会長会	4月8日	令和7年度総会の検討
監査会	4月8日	令和6年度会計監査
総会	4月14日	令和7年度総会
実務担当者会議	5月22日	フードドライブ事業への協力と法人間合同研修の協議
	10月17日	フードドライブ事業の結果確認と法人間合同研修の協議
	1月27日	フードドライブ事業の結果確認と令和8年度の事業計画・予算の検討
代表者会議	2月19日	令和7年度事業報告・決算、令和8年度事業計画・予算の検討

財源	多可町社会福祉法人連絡協議会会費

■生きがい活動支援通所事業の実施（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）

町からの受託事業として、在宅で生活しているおおむね65歳以上の高齢者が家に閉じこもりがちにならないよう、集落の公民館等で地域介護予防講座やあったか講話を開催しました。

地域介護予防講座では、「いきいき百歳体操」の普及啓発等を行うことによって、心身機能の維持向上や閉じこもりの防止に努めました。

《地域介護予防講座　各集落年2回》

「いきいき百歳体操」の普及啓発を行い、「元気あっぷ広場」の立ち上げへのきっかけづくりと

「遊びながら学びきづく」を中心に進め、心身機能の維持向上に努めました。
《あったか講話　各集落年1回》
集落ごとに宝物マップづくりとレクリエーション遊具体験を実施しました。宝物マップづくりでは、マップづくりを通して人の集まる場や助け合いの場などを確認することで、活動への参加者増加や新たな活動を促し、社会参加を促進しました。また、レクリエーション遊具体験では、地域づくりを意識した使い方を紹介することで、場づくりの際の一工夫を考えることも介護予防につながることを啓発しました。

開催場所	集落公民館等

《地域介護予防講座》

今年度実施回数	116回（中区　40回、加美区　42回、八千代区　34回）
前年度実施回数	118回（中区　40回、加美区　44回、八千代区　34回）
今年度参加者数	1,610名（中区 613名、加美区 613名、八千代区 384名）
前年度参加者数	1,696名（中区 641名、加美区 649名、八千代区 406名）

《あったか講話》

今年度実施回数	58回（中区　20回、加美区　21回、八千代区　17回）
前年度実施回数	56回（中区　19回、加美区　21回、八千代区　16回）
今年度参加者数	773名（中区 288名、加美区 300名、八千代区 185名）
前年度参加者数	747名（中区 273名、加美区 289名、八千代区 185名）

財源	町受託金

■特別支援学校への支援（推進目標１／きづく）

障がいや特別支援学校について地域の人に知ってもらうため、北はりま特別支援学校の小学部、中学部、高等部の余暇活動時にボランティアの派遣を行いました。

内容	開催日	派遣者数
高等部との交流	11月5日	2名
中学部との交流	11月14日	6名
小学部との交流	11月25日	7名

■社協だより多可、たかテレビ等による情報発信（推進目標１／きづく）重点

社協だより多可、ホームページは、「見やすく」「分かりやすく」、タイムリーな情報提供ができるよう工夫しました。また、Facebook、X、LINEによる情報発信を行い、情報がより多くの住民に届くよう努めました。
さらに、たかテレビの『あっ！たかインフォ』などを活用し、社協活動を積極的にＰＲしました。

媒体	今年度発信回数	前年度発信回数
社協だより多可	12回	12回
社協ホームページ	56回	69回

Facebook、X、LINE	410回	424回
たかテレビ「あっ！たかインフォ」	10回	11回

《たかテレビ「あっ！たかインフォ」で放送したもの》

- 社協ガイド
- 社協まつり
- 障がい者スポーツ大会
- 歳末たすけあい募金
- 福祉機器・福祉車貸出事業
- 社協会費
- ボランティア体験
- 赤い羽根共同募金
- ボランティア募集
- 日常生活自立支援事業

財源	社協会費、介護等事業、善意銀行

■社協ガイドの作成（推進目標１／きづく）

社協活動や事業を地域の方に理解してもらうために社協ガイドを作成し、全戸配布しました。また、たかテレビの「あっ！たかインフォ」でも5月に放送し啓発しました。

財源	社協会費

■介護者だよりの発行（推進目標１／きづく）

介護に役立つ情報や介護者の会の活動をお知らせするために「介護者だより」を毎月発行し、町内の介護者に配布しました。

財源	赤い羽根共同募金配分金

■社協まつりの開催（推進目標１／きづく、活動目標２／つながる）

福祉についての理解と関心を高め、地域の支え合い・助け合い、福祉のまちづくりについて考える機会とするため、地域住民や各種団体・関係機関等と連携し開催しました。

石田千惠子氏の講演では、夫婦・育児・実母の介護経験をユーモアを交えてお話をされました。7男2女の子ども達の成長と、子育てや家族に対する思いや考え方に参加者の皆さんは感銘を受けました。

また、福祉学習体験発表では、小学4年生児童が高齢者・障がい者・ボランティアについての学習を通して感じた福祉への気づきを発表しました。

屋内・屋外21のブースでは、障がい者事業所や商工会、キッチンカーや団体・グループの協力による福祉体験コーナーや販売ブースで賑わいました。多可高等学校ボランティア部は、より主体的なボランティア活動を担い、子どもが楽しめるブースの考案から当日の運営まで積極的に活動しました。

今年度の新しい試みとして、地域の商店や企業へ協賛を募り、商品のＰＲとともに社協まつりを盛り上げていただきました。

開催日	7月19日
開催場所	ベルディーホール
来場者数	約700名

財源	赤い羽根共同募金配分金、介護等事業、善意銀行

■バス乗車体験会の開催（推進目標１／きづく）

今後、通院や買い物のための移動手段の一つとして、公共交通機関であるバスの利用に親しんでもらうため、バスの乗車体験会を開催しました。杉原谷小学校区と八千代小学校区の一部の集落を対象として、多可町役場や多可赤十字病院に行く内容を実施しました。

今年度		前年度
開催日	参加者数	参加者数
7月1日	13名	19名
7月3日	8名	

財源	赤い羽根共同募金配分金、参加費

■各種ボランティア養成講座、研修会等の開催（活動目標１／きづく）重点

ボランティアの育成やスキルアップ、またボランティア相互の交流を図るため、各種講座・研修会・交流会を開催しました。講座等ではアンケートを実施し、ボランティアの依頼や次回講座の企画・運営の参考としました。

各区で生活支援グループや居場所支援グループが立ち上がり、新たなボランティアが求められていることから、生活支援サポーター養成講座を開催しました。その結果、2名が活動につながりました。また、その他のボランティア活動についても7名が活動に参加しました。

さらに、シニアクラブ連合会役員等を対象にボランティア体験を実施し、8名が継続的な活動につながりました。

このほかにも各種講座や研修会を開催し、合わせて延べ24名が新たに活動を始めました。

今年度開催回数／延べ参加人数	9種　33回　延べ 181名参加
前年度開催回数／延べ参加人数	7種　32回　延べ 153名参加

内容	開催日	延べ参加者数	開催場所
点訳ボランティア養成講座	6月21日～12月6日 ※全12回	12名	播磨内陸生活文化総合センター（ドウジアム）
介助ボランティア養成講座（ガイドヘルプ）	6月13日	5名	あすみる
傾聴ボランティア養成講座	7月11日	20名	社協本部
災害ボランティア養成講座	8月22日	17名	社協本部
ボランティア体験	10～12月	10名	町内
ボランティア交通安全教室	10月17日	21名	八千代プラザ
生活支援サポーター養成講座	12月3日	26名	社協本部
リスナーとボランティアのつどい	2月10日	8名	あすみる
ボランティア研修会	2月20日	62名	あすみる

財源	県社協補助金、県社協受託金、善意銀行、参加費

■ボランティアに関する相談・コーディネート・支援
（活動目標１／きづく、活動目標３／ささえあう）

ボランティアセンターにおいて、活動に関する相談の受付、調整、支援を行いました。また、支援を必要とする人と近い集落のボランティアを派遣し、地域づくり活動につなげました。

昨年度に引き続き、福祉施設からの囲碁や将棋のレクリエーションボランティア派遣依頼が増え、ボランティアの特技や趣味を生かしたコーディネートを行いました。また、利用者宅や施設を訪問してお話を聞かせてもらう傾聴ボランティアの依頼も増え、ボランティア活動がより活発化しました。

また、社協まつりや障がい者スポーツ大会では、中学生・高校生もボランティア活動に参加することで、若い世代にもボランティアへの意識を広めることができました。

さらに、社協まつりやボランティアからの声かけ、ボランティア連絡会交流会時のアンケートをきっかけに新規活動者が34名増え、ボランティアの輪が広がりました。

活動内容	派遣先・事業名	今年度派遣回数	今年度延べ派遣人数	前年度派遣回数	前年度延べ派遣人数
調理・配送・回収	ふれあい型給食サービス	97回	1,120名	97回	1,170名
交流	障がい者の事業所との交流、身体障害者福祉協会との交流、北はりま特別支援学校との交流	31回	98名	29回	85名
訪問	地域見守り訪問	52回	131名	47回	120名
介助	グループホームやすらぎの郷（外出活動、学童との交流）、生涯学習課（青い鳥学級）	13回	19名	10回	13名
託児	社協まつり、健康課、生涯学習課、議会事務局、総務課、子育てふれあいセンター	22回	50名	7回	16名
運転	外出支援サービス	42回	42名	92回	92名
運転・介助	買い物ツアー、リフレッシュ教室	302回	524名	330回	538名
傾聴	在宅、施設訪問	96回	191名	80回	160名
音訳	朗読CDの貸出	48回	309名	48回	347名

レクリエーション	ふれあいいきいきサロン、障がい者の事業所との交流、デイサービスセンターやすらぎ、グループホームやすらぎの郷、しあわせ荘、パワーリハビリ倶楽部、清爽の里、シニアクラブ、集落	394回	577名	244回	389名
認知症サポーター	絆カフェ	16回	27名	12回	27名
行事手伝い	社協まつり、デイサービスセンターやすらぎ（デイサービス夏祭り）、生涯学習課（あすみるEXPO2025、つながる広場）、障がい者スポーツ大会	7回	61名	5回	61名
補助	学校向け福祉学習、地域包括支援センター（元気あっぷ広場）	54回	115名	54回	111名
合計		1,174回	3,264名	1,055回	3,129名

■ふれあいいきいきサロン活動の支援

（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）重点

地域住民が気軽に集まり、つながりと生きがいを持ちながら互いに助け合い、誰もが地域でいきいきと安心して暮らせることを目指し、サロンスタッフ研修会の開催、レクリエーション遊具の貸出、活動経費の一部助成、サロンに関する各種相談など、サロンへの支援を行い、多くの地域でサロンが開催されるよう努めました。

内容	開催日	参加者数	開催場所
サロンスタッフ研修会	4月5日	34名	八千代プラザ

	サロン数	実施回数
今年度実績	46地区	388回
前年度実績	45地区	407回

財源	社協会費

■あったかわくわくスタッフ支援事業の開催

（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）重点

集落でのつどいの場を広げていくことを目的として、小規模な集まりを企画、実施する立場にある方（ふれあいいきいきサロンのスタッフ、元気あっぷ広場スタッフ等）を対象に、高齢者向けのレクリエーションについて学ぶための研修会を開催しました。また、サロンスタッフ等が気軽に情報共有のできる機会として、年2回スタッフサロンを開催しました。

内容	開催日	参加者数	開催場所
研修会	9月12日	30名	あすみる
スタッフサロン	6月11日	13名	社協本部
	12月10日	8名	社協本部

財源	赤い羽根共同募金配分金

■夏季オープン公民館助成事業

（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）新規・重点

学校が夏休みとなる時期に、集落住民が集える場・クールシェアスポットとして公民館を開放し、年齢関係なく多世代がつながる機会を創出することを目的とし、7～8月に15日以上公民館を開けて住民が集まる集落を対象として1万円を助成しました。

集落名	内容	活動実績
天田	子どもの勉強する場の提供、世代間交流	16日間／延べ 56名
中安田	子どもの勉強する場や世代を超えた交流の場	28日間／延べ296名

財源	社協会費

■障がい者の事業所とボランティアの交流（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）

町内の事業所や多可町作業所連絡会を対象に助成しました。ボランティアや講師を派遣し、交流を通して障がいや事業所への理解を地域に深めました。

	今年度 助成額	今年度 実施回数	前年度 助成額	前年度 実施回数
一般社団法人S-CUBE	60,000円	10回	60,000円	11回
NPO法人みどり会	30,000円	5回	30,000円	5回
NPO法人やちよ	60,000円	11回	60,000円	10回
多可町作業所連絡会	100,000円	1回	100,000円	1回

財源	赤い羽根共同募金配分金

■ハートフルツアーの開催（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）

身体・知的・精神障がい者を対象に、キューピー神戸工場や神戸ポートピアホテルに行き、社会参加や親睦・交流を図りました。

開催日	12月18日
参加者数	34名

財源	歳末たすけあい募金配分金、参加費

■子育て応援クリスマスプレゼント事業の実施（推進目標３／ささえあう）

多可町の提唱する「子育てするなら多可町」を推し進め、子育て世帯のリフレッシュを目的に、新生児の生まれた世帯に対しクリスマスプレゼントを配布しました。

	配布帯数
今年度実績	32世帯
前年度実績	35世帯

財源	歳末たすけあい募金配分金

■視覚障がい者への支援（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）

視覚障がい者の情報保障として、社協だより多可、広報たか、議会だよりなどを音訳ＣＤへ吹き込み、視覚障がいのある希望者へ毎月届けました。また、多可町図書館にも貸出用として設置し、希望者への貸し出しを行いました。

音訳ＣＤを聞いているリスナーと朗読ボランティアの交流会を年1回実施し、内容についての要望を確認することにより、希望する情報を提供しました。

	利用者数	延べ発送件数
今年度実績	7名	84件
前年度実績	9名	90件

■障がい者スポーツ大会の開催（推進目標１／きづく、推進目標２／つながる）

町からの受託事業として、身体・知的・精神障がい者が、お互いの交流と親睦を深め、障がい者の社会参加意欲の高揚と体力の維持増進を図ることによって、障がい者の自立更生に寄与するとともに、スポーツを通じ住民の障がい者に対する理解と認識を深め、ともに生きる地域社会づくりを目指すことを目的として開催しました。

開催日	10月25日
開催場所	アスパル
参加者数	93名

財源	町受託金

■福祉団体の事務および活動支援（推進目標２／つながる）

シニアクラブ連合会や身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、遺族会、ボランティア連絡会、介護者の会の事務局として、各種団体の運営・活動支援を行いました。

団体名	今年度会員数
シニアクラブ連合会	2,529名
身体障害者福祉協会	248名
手をつなぐ育成会	38名
遺族会	442名
ボランティア連絡会	456名
介護者の会	18名

■地域見守り訪問事業の推進（推進目標１／きづく、推進目標３／ささえあう）

敬老の日発祥の町多可町として敬老の精神を広めるために、80歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、ボランティアや地域福祉推進委員が誕生月に訪問し、健康と長寿のお祝いに花を届けました。また、必要に応じて、日常生活の中での不安や困りごとなどを聞き取り、適切なサービスや関係機関につなげました。

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度訪問者数	123名	48名	59名	230名
前年度訪問者数	131名	58名	53名	242名

財源	赤い羽根共同募金配分金

■地域福祉活動助成事業の推進（推進目標３／ささえあう）

町内の地域福祉の推進を図ることを目的とした団体・グループに助成を行うことで、住民主体の地域福祉活動の充実・活性化を図り、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めました。また、助成団体の活動内容を社協だより多可やたかテレビで紹介し、活動の支援や周知を図りました。

	団体数	助成額
今年度実績数	13団体	370,000円
前年度実績数	11団体	370,000円

助成団体	助成額
おひると勉強の会	10,000円
「幸ちゃんの家」プロジェクト	20,000円
チームオレンジたか	40,000円
なかきたこっく	30,000円
もえぎ倶楽部	30,000円

みねぶりコーラス	20,000円
まぜこぜ	30,000円
多可町介護者の会	20,000円
ちょいボラグループやちよお助け隊	50,000円
たかビスケット	20,000円
西脇点訳友の会	30,000円
チョコボラなか	20,000円
たか手話サークル	50,000円

財源	赤い羽根共同募金配分金

■福祉機器貸出事業の実施（推進目標４／ささえる）

在宅で介護を要する人を対象に、福祉機器を無料で貸し出し、在宅での療養生活の利便を図りました。ただし、要介護認定を受けられた場合は介護保険サービス、身体障害者手帳を取得された場合は、日常生活用具給付事業及び補装具費支給事業を優先しました。

貸出品名	車いす・スロープ
貸出最長期間	1ヶ月間

	車いす	スロープ
今年度貸出件数	85件	11件
前年度貸出件数	98件	19件

財源	社協会費

■福祉車両貸出事業の実施（推進目標４／ささえる）

車いすやストレッチャーを使用しないと外出できず、かつ家庭において運転ができる家族がある人を対象に、福祉車を貸し出し、医療・保健・福祉等の利用の便を図りました。

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度登録者数	10名	20名	10名	40名
前年度登録者数	15名	23名	9名	47名
今年度利用件数（町内）	20件	28件	7件	55件
前年度利用件数（町内）	50件	56件	8件	114件
今年度利用件数（町外）	13件	13件	18件	44件
前年度利用件数（町外）	15件	17件	5件	37件

財源	社協会費

■ふれあい型給食サービス事業の実施（推進目標４／ささえる）

老衰、心身の障がい及び疾病等の理由により見守りが必要で、おおむね65歳以上の高齢者のみの世帯等を対象に、ボランティアが調理した給食を届けました。民生委員児童委員や地域包括支援センターなどと連携を図るとともに、見守りシートの回収を通して、利用者の健康状態や不安の把握など見守り活動を促進しました。見守りシート回収のボランティア活動をより身近な方が活動することで、些細な変化に気づくことができるよう目指しています。

	中区	加美区	八千代区
調理場所	アスパル	交流会館	八千代プラザ
実施日	毎週木曜日		
利用料／食	300円		
今年度実施回数	50回		
前年度実施回数	49回		

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度登録者数	76名	19名	25名	120名
前年度登録者数	62名	22名	29名	113名
今年度配食数	2,508食	736食	1,016食	4,260食
前年度配食数	1,893食	783食	847食	3,523食
今年度平均配食数	50.2食/回	14.7食/回	20.3食/回	85.2食/回
前年度平均配食数	38.6食/回	16.0食/回	17.3食/回	71.9食/回
今年度調理ボランティア数	90名	84名	90名	264名
前年度調理ボランティア数	87名	84名	73名	244名
今年度配送・回収ボランティア数	271名	173名	412名	856名
前年度配送・回収ボランティア数	401名	185名	340名	926名

財源	赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金配分金、利用料

■買い物ツアー事業の実施（推進目標４／ささえる）

外出しにくい、おおむね75歳以上の高齢者のみの世帯を対象に、区ごとに月2回ずつ町内での買い物のための送迎と介助を行いました。

	中区	加美区	八千代区
実施日	毎月第1・3火・水曜日	毎月第2・4火・水曜日	毎月第2・4火・水曜日

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度実施回数	71回	48回	61回	180回
前年度実施回数	70回	47回	46回	163回
今年度登録者数	20名	9名	11名	40名

前年度登録者数	18名	10名	11名	39名
今年度利用者数	265名	167名	170名	602名
前年度利用者数	192名	155名	154名	501名
今年度ボランティア数	142名	114名	121名	377名
前年度ボランティア数	142名	115名	91名	348名

財源	赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金配分金

■無料法律相談の実施（推進目標４／ささえる）

年12回、弁護士による無料法律相談を開催しました。また、年3回、町内有識者の協力を得て、家事関係の悩み相談を開催しました。

	無料法律相談	調停等手続き相談
開設月	毎月第4火曜日	7月、11月、3月（第1木曜日）
開設時間	午後1時～3時（1人30分）	午前10時～12時（1人30分）
開設場所	社協本部	社協本部

	無料法律相談	家事関係の悩み相談
今年度利用者数	41名	1名
前年度利用者数	33名	2名

財源	善意銀行

■外出支援サービス事業の実施（推進目標４／ささえる）

町からの受託事業として、おおむね65歳以上の高齢者のみの世帯で、家族に車の運転できる人がなく、一般の交通機関を利用することが困難な人や下肢が不自由な人、視覚障がい者を対象に、医療機関等への送迎サービスを行い、在宅福祉の向上を図りました。

	中区	加美区	八千代区	視覚障がい者	合計
今年度登録者数	4名	4名	3名	3名	14名
前年度登録者数	7名	5名	3名	3名	18名

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度利用件数（町内）	35件	3件	24件	62件
前年度利用件数（町内）	90件	11件	34件	135件
今年度利用件数（町外）	154件	0件	7件	161件
前年度利用件数（町外）	272件	0件	5件	277件

財源	町受託金、利用料

■多可赤十字病院への支援（推進目標４／ささえる）

多可赤十字病院からの受託事業として、リフレッシュ教室の送迎と介助の支援を行いました。

	送迎回数	ボランティア数	介助回数	ボランティア数
今年度	98回	98名	24回	48名
前年度	143回	143名	24回	47名

財源	日赤受託金

■資金貸付事業の実施（推進目標４／ささえる）

生活問題を抱える世帯への援助として資金を貸し付け、世帯の生活の安定と向上を図りました。生活福祉資金は県社協の受託事業として、また、法外援護資金は多可町社協独自の貸付事業として実施し、民生委員児童委員と連携しながら実施しました。

《生活福祉資金・法外援護資金共通》

今年度相談件数	92件
前年度相談件数	113件

《生活福祉資金》

	通常貸付	新型コロナ特例貸付
今年度貸付決定件数／合計貸付件数	1件／25件	令和4年9月末で終了
今年度償還完了数	1件	16件
前年度貸付決定件数／合計貸付件数	0件／25件	令和4年9月末で終了
前年度償還完了数	1件	8件、免除31件

財源	県社協補助金、県社協受託金

《法外援護資金》

今年度貸付決定件数／合計貸付件数	0件／2件
今年度償還完了数	2件
前年度貸付決定件数／合計貸付件数	0件／4件
前年度償還完了	0件

財源	償還金、善意銀行

■一時的食糧等給付事業（推進目標４／ささえる）

今年度の利用はありませんでしたが、一時的に経済的困窮に陥った生活困窮者への支援として食糧等の生活に必要な物資の給付を行い、その世帯の自立を促し円滑な社会生活が送れるよう支援します。多可町社協独自の事業として、民生委員児童委員と連携しながら実施しています。

	今年度	前年度
相談件数	0件	0件

財源	善意銀行

■生活困窮者支援体制強化事業（推進目標１/きづく、推進目標４／ささえる）重点

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた生活福祉資金特例貸付の償還期間内において、生活困窮状態が続く借受世帯等が、安心して暮らすために必要な支援と地域内のセーフティネットを充実させることで、社会的孤立・排除の解消・予防を図ることを目的として行いました。

具体的には、借受世帯や困窮世帯等への相談支援や情報提供、就労先の紹介やフードドライブ事業の実施等を行っています。フードドライブ事業を利用された方には、聞き取りを行い生活課題の確認をしています。また、関係機関との打ち合わせ会を開催し、生活課題の実態把握や地域における協働した取り組みを行いました。

	給付者数	食品提供者数
1回目（6～7月）	13世帯22名	30名
2回目（11～12月）	48世帯96名	43名
3回目（2月）	10世帯19名	0名
臨時の支援	11世帯17名	2名

財源	県社協補助金

■日常生活自立支援事業の推進（推進目標４／ささえる）

県社協からの受託事業として、認知症高齢者や知的障がい者など判断能力が十分でない人を対象に、住み慣れた地域で安心して自立生活が送れるよう、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などの援助を行いました。事業が地域により浸透するよう、サービス内容の周知のため社協だより、介護者だよりに掲載、たかテレビ「あっ！たかインフォ」でも放送しました。

また、行政担当課との制度に関する情報共有や、北はりま成年後見支援センターとの連携も進めました。

利用料／時間	1,400円（交通費は実費負担）

	今年度	前年度
相談件数	108件	140件
契約者数	4名	3名
解約者数	0名	2名
派遣回数	61回	57回

財源	県社協受託金、利用料

■ふとん丸洗いサービス事業の実施（推進目標４／ささえる）

布団が干しづらく、在宅で生活されている75歳以上の高齢者のみの世帯の要介護認定「要介護1～4」の方、要介護認定「要介護5」の方、身体障害者福祉手帳「1級」の方、家族介護用品給付事業で「おむつ」を申請されている方を対象に、利用者が使用している布団の丸洗いを行い、快適で衛生的な生活を支援しました。

利用者一人につき掛布団・敷布団・掛毛布・敷毛布をそれぞれ1枚ずつ、補助は1人5,000円までとし、超えた額は個人負担として行いました。

	回収日	返却日
実施日	6月2日	6月16日

	中区	加美区	八千代区	合計
今年度利用者数	7名	5名	4名	16名
前年度利用者数	9名	8名	5名	22名
今年度平均利用額	—	—	—	7,088円
前年度平均利用額	—	—	—	7,187円

財源	社協会費

■歳末見舞金事業（推進目標４／ささえる）

歳末たすけあい募金を行い、要援護世帯や認知症の方など、新たな年を迎える時期に支援を必要とする方に見舞金を贈りました。民生委員児童委員協議会の協力を得ながら実施しました。

《個人》

		中区	加美区	八千代区	合計額
A	生保受給世帯	16世帯	5世帯	3世帯	120,000円
B	準生保世帯	9世帯	13世帯	10世帯	202,000円
C	高齢者独居	39世帯	36世帯	33世帯	540,000円
D	高齢者世帯	12世帯	2世帯	2世帯	80,000円
E	母子世帯	8世帯	5世帯	3世帯	80,000円
F	父子世帯	1世帯	1世帯	0世帯	10,000円
G	寝たきり（在宅）	1世帯	2世帯	0世帯	15,000円
H	重度障がい者（在宅）	5世帯	3世帯	0世帯	40,000円
I	認知症（在宅）	0世帯	3世帯	0世帯	15,000円
合計		91世帯	73世帯	51世帯	1,102,000円

《施設》

施設名		合計額
NPO法人	あきら多可	30,000円
	すまいる	30,000円
	cambio	30,000円
	みどり会	30,000円
	ネクスト	30,000円
	やちよ	30,000円
	Esporte	30,000円
合計		210,000円

財源	歳末たすけあい募金配分金

■児童安全対策事業（推進目標４／ささえる）

子どもたちの健全な育成を願い、これからの生活をより安全に過ごしてもらうことを目的として、新小学一年生にヘルメットを寄贈しました。

寄贈数	今年度	前年度
	88名	93名

財源	善意銀行

■介護事業（推進目標４／ささえる）

事業所名	事業内容		今年度	前年度
居宅介護支援事業（ケアプラン）	ケアプラン件数		1,645件	1,574件
	介護予防プラン件数		188件	183件
	認定調査件数		66件	74件
	実態把握件数		60件	77件
	認知症相談センター相談件数		25件	24件
	認知症初期集中支援チーム参加回数		12回	11回
通所介護事業（デイサービス）	稼働日数		305日	309日
	延べ利用者数	要介護	6,753名	7,002名
		要支援等	722名	827名
	１日あたり利用者数		24.5名	25.3名
	転倒予防教室		46回	46回
生きがい活動支援通所事業	延べ利用者数		256名	278名
毎日配食事業	延べ配食数／利用者数		71食/1名	98食/2名

生きがい発揮事業（ふれあい事業）	延べ利用者数／回数		113名/4回	95名/4回
訪問介護事業（ホームヘルパー）	訪問介護回数	要介護	7,709回	8,782回
		要支援	156回	199回
	訪問入浴回数		167回	111回
	障害サービス回数	居宅	1,271回	1,906回
		移動	63回	84回
		同行（ガイド）	96回	92回
	軽度生活支援回数		32回	49回
	子育て世帯訪問支援回数		117回	55回
	産前産後ヘルパー派遣回数		73回	48回
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	入居率（入居者数／日）		8.9名	8.5名
	グループホーム運営推進会議		6回	6回

グループホームにおいては退去者が1名ありましたが、スムーズに入居が決まりました。居宅介護支援事業はケアマネジャーの増員により、件数が増えています。訪問介護事業は、利用者の減少に伴い利用件数も減少しています。訪問入浴と委託事業は増加となっています。通所介護事業は、真夏の利用者減とインフルエンザ感染拡大による休業が延べ利用者数に影響しています。介護事業課全体に共通して重度の介護が必要な方の利用が減少しています。

■地域福祉推進委員会の機能強化（組織強化）

住民が主体となり、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めるため、地域福祉推進委員会の開催を支援しました。地域福祉推進委員は、住民の代表で構成されています。

任期の2年目となり、支部ごとにそれぞれのテーマに沿った取り組みを深めました。

会議名	開催回数	開催日と内容
合同会議	2回	6月23日、3月16日 支部活動の報告とグループワーク（テーマ「これから5年間～多可町をもっとこうしたい！こうあってほしい！」「ここがGOOD！」「こうすればもっとGOOD！」）
中支部地域福祉推進委員会	4回	5月19日、8月18日、11月28日、2月16日 「困った時の“みちしるべ”」作成に向けた取材の検討や取材 テーマ「困った時の“みちしるべ”」
加美支部地域福祉推進委員会	6回	5月20日、7月7日、9月29日、11月26日 1月28日、2月25日 ふれあいいきいきサロンの啓発について テーマ「ふれあいいきいきサロンの取材・啓発」
八千代支部地域福祉推進委員会	3回	6月23日、12月5日、2月9日 地域見守り訪問での困りごとの聞き取りについて テーマ「高齢者の困りごと」

財源	社協会費

■災害救援マニュアルの推進（組織強化）

町内において地震、風水害その他の災害が発生した時に、災害救援活動を効果的、かつ円滑に実施できるよう検討を行い、改訂しました。

■地域福祉推進計画の推進（組織強化）

第4次地域福祉推進計画（令和3年度～令和7年度）の最終年度であり、中間見直し書に沿って活動を進めるとともに、地域住民や関係機関等への周知を図りました。

また、第5次地域福祉推進計画（令和8年度～令和12年度）の策定に向けて、地域住民を交えた策定委員会と職員によるワーキングチームを立ち上げ、計画策定を行いました。

	開催回数
策定委員会	4回
ワーキング	4回

■職員会議の開催（組織強化）

定期的に職員会議を開催し、職員間での情報共有を図り、社協活動のスムーズな運営体制を築きました。

■職場内外研修会の実施と参加（組織強化）

職場内では、勉強会を実施し、職員の資質向上に努めました。

職場外では、会議や研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップと他市町とのネットワークづくりに努めました。

■関係機関との連携強化、情報共有（組織強化）重点

情報共有による効率的な事業展開を図るため、関係機関との連携強化、情報の発信と受信、定期的な連絡・調整会議を開催しました。多可町地域共生推進協議会、地域ケア会議やケース検討会などの専門機関会議へ参加しました。

■社協会員への協力依頼（組織強化）

一般会員・賛助会員・団体会員で組織された会員制度を広く周知し、会員加入の促進を図りました。

	今年度	前年度
一般会費	5,333,000円	5,413,500円
賛助会費	261,000円	246,000円
団体会費	80,000円	80,000円
合計	5,674,000円	5,739,500円

■財源確保と情報公開（組織強化）

多様性に富んだ福祉事業を展開するため、社協だより多可やチラシなどで会費・共同募金等の啓発活動を行いました。共同募金配分金や善意銀行預託金の有効活用の検討を行い、使途の明確化を図りました。受託事業については、事業に見合う適正な委託金を行政へ要望し、介護事業収入については、町全域への介護事業の展開を図りました。

・善意銀行（組織強化）

	今年度	前年度
金銭預託件数／金額	95件/943,981円	95件/1,302,209円
物品預託件数／内容	0件	0件

■理事会・評議員会等の開催と研修会の実施（組織強化）

・理事会　4回（6月4日、6月20日、12月9日、3月13日）
・評議員会　3回（6月20日、12月19日、3月23日）
・正副会長会　4回（5月27日、9月26日、12月2日、3月6日）
・評議員選任・解任委員会　2回（6月5日、12月11日）

■その他

・本部・中支部事務所（中区岸上224番地9）へ移転（4月1日）
・ヘルパーステーション（加美区市原41番地）へ移転（4月1日）
・「トライやる・ウィーク」の受け入れ･･･6月2日～6月6日
　中町中学校…2名（本部・中支部）
　加美中学校…3名（デイサービスセンターやすらぎ）
・介護支援専門員実習生の受け入れ…2名（4/25・4/28・4/30）